

平成21年度「PT、OT、ST等の外部専門家を活用した指導方法等の改善に関する実践研究事業」の研究概要

都道府県 青森県

1. 指定地域・指定校

地域名	学校名	障害種	幼児児童生徒数					計
			幼稚部	小学部	中学部	高等部	専攻科	
津軽地区	青森県立弘前聾学校	聴覚障害	3	5	0	-	-	8
県南地区	青森県立七戸養護学校	知的障害	-	50	36	59	-	145

2. 研究概要

○研究テーマ

教員の専門性向上と授業の改善と充実を目指した外部専門家の活用と連携の在り方に関する実践研究

○研究の概要

\*主な内容

『学校における外部専門家の活用』

- ・学校におけるケース会議において、特に実態把握に関する専門的な助言を得る。また、不在時でも適切に助言が得られるような方法を工夫する。
- ・個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成や修正において、専門的な助言を計画に反映させる。
- ・日々の授業における指導内容や方法、評価への助言を得、授業の改善と充実を図る。
- ・公開研修会等により、教員だけでなく保護者や地域住民などが専門的な知見を得、共有する。

『地域における外部専門家との連携』

- ・病院等の訪問時において、指導に生かすべき情報の収集・共有方法を工夫する。
- ・保護者だけでなく、幼児児童生徒が日常的に利用する福祉施設等との情報共有の方法を工夫する。

\*具体的な取組

【津軽地区：弘前聾学校】

- ・ケース会議及び授業検討会への効果的なSTの参画方法の検討
- ・手話通訳士及び要約筆記奉仕員を講師とした教員のコミュニケーション能力の向上に特化した研修会の開催と授業改善への還元方法の検討
- ・主に教員の授業評価を測定する授業評価表の試作

【県南地区：七戸養護学校】

- ・ケース会議及び授業検討会への効果的なPT、OT等の参画方法の検討
- ・複数の医療施設を利用している児童生徒に関する効果的な連携方法の検討
- ・授業改善を効果的に進めるための各様式の作成と試行

平成21年度「PT、OT、ST等の外部専門家を活用した指導方法等の改善に関する  
実践研究事業」の研究概要

都道府県 秋田県

1. 指定地域・指定校

地域名	学校名	対応する主障害	幼児児童生徒数					計
			幼稚部	小学部	中学部	高等部	専攻科	
秋田県	豊学校	聴覚障害及び重複障害	11	12	6	8	9	46
	秋田養護学校	肢体不自由及び重複障害		17	12	19		48
	比内養護学校	知的障害及び重複障害		22	31	22		75
	能代養護学校	知的障害及び重複障害		24	26	44		94
	天王みどり学園	知的障害及び重複障害		42	25	39		106
	ゆり養護学校	知的障害及び重複障害		18	25	48		91
	横手養護学校	知的障害及び重複障害		18	26	33		77
	稲川養護学校	知的障害及び重複障害		19	20	25		64

2. 研究概要

○研究テーマ

**PT、OT、STとの連携による障害の多様化に応じた授業づくりと教育課程の編成  
～校内組織・体制の整備と自立活動等における指導方法の改善を中心に～**

特別支援学校において、PT、OT、STの活用による校内組織・体制の整備と教員の指導技術研修、自立活動等の授業改善を通し、多様な障害種に対応する教育課程の編成や指導方法の充実を図るための実践研究を行う。

○研究の概要

〈県教育委員会〉

**1 事業推進会議（年1回）**

- ・ 県教育委員会、各指定校、PT、OT、STによる推進会議を設置
- ・ 実践研究事項や実施計画の共通理解、研究の方向性や各指定校での実践への指導・助言等

**2 指定校自立活動担当者連絡協議会（年1回）**

- ・ 研究テーマ及び1年次の課題、各指定校での実践研究内容の確認等、各指定校間の連携及び情報の共有化

**3 PT、OT、STスーパーバイザーによる巡回訪問**

- ・ 各指定校及びPT、OT、STに対して、専門的・総合的見地から指導助言をするスーパーバイザー3名（PT、OT、ST各1名）を委嘱
- ・ スーパーバイザーは、県教育委員会担当者と一緒に指定校を訪問
- ・ 対象幼児児童生徒の様子や自立活動等の授業の実際を参観、校内組織・体制や実践研究内容等を確認、改善点及び今後の方向性等についての助言

**4 報告書の作成（最終）**

〈指定校〉

**1 PT、OT、STの授業への活用**

- ・ 幼児児童生徒の実態把握や個別の指導計画の作成、教材・教具の工夫、評価方法等についての指導・助言

**2 校内自立活動推進組織及び体制の整備**

**3 職員研修会の実施**

**4 校内授業研究会の実施**

**5 教育課程等の検討**

**6 評価（活用前、活用後）の実施**

**7 指定校における実践研究の報告**

**8 実践研究報告会の開催**

- ・ 指定校3校において、実践研究報告会を開催
- ・ 県内特別支援学校や地域の幼稚園・保育所等、小・中学校、高等学校、関係機関等への成果報告

平成21年度「PT、OT、ST等の外部専門家を活用した指導方法等の改善に関する実践研究事業」の研究概要

都道府県	石川県
------	-----

1. 指定地域・指定校

地域名	学校名	障害種	幼児児童生徒数					
			幼稚部	小学部	中学部	高等部	専攻科	計
石川県内全域	石川県立養護学校	肢体不自由		7	7	19		33
	石川県立明和養護学校	知的障害		57	48	101		206

2. 研究概要

○研究テーマ

【石川県立養護学校】

うごき・ことば・せいかつを高める指導のあり方  
～外部専門家との連携による指導力向上に関する研究～

【石川県立明和養護学校】

豊かな学びを支える指導のあり方  
～外部専門家との連携による指導力向上に関する研究～

○研究の概要

1. 目的

外部専門家との連携を通して、教員の専門性向上と授業力向上を図る。

2. 方法

PT・OT・ST等の外部専門家と連携し、指導にいかす。  
・職員研修会や研究会に参加していただき、講演や助言を受ける。  
・指導方法や評価等について相談する。

3. 評価の観点

(1)外部専門家との連携をとるためのシステムが学校の中に確立されたか  
(2)連携により児童生徒に対して指導効果が上がったか  
(3)連携により、教員の指導力が向上したか。教材開発力が高まったか  
(4)指導力を向上させた知識や技術が共有の財産として校内に蓄えられたか  
以上の諸点について、観点を明確にして評価を試み、研究成果について考察する。

4. 内容

(1)教員の専門性向上を目指した取り組み  
1) 外部専門家による研修会  
・全体研修会・小グループ研修会  
2) 大学教授等による研修会  
・全体研修会・小グループ研修会・寄宿舎への指導・事例検討会助言  
(2)授業力向上を目指した取り組み  
・PTとの連携・OTとの連携・STとの連携・視覚の専門家との連携  
・小グループ研究会にて指導の様子をビデオ分析する。

5. 昨年度の成果と課題

1年次の研究の結果、次のような効果があった。  
1) 連携して指導したケースに明らかな効果が見られた。  
2) 研究にかかわった教師は専門的な知識や技能が高まったと感じている。また、これら研究により得られた知見を研究報告会とサーバーでの記録管理により校内の教員に周知するようしてきた。

課題としては、

1) 指導効果の査定を厳しくする必要があること  
2) 現状での連携システムを研究終了後も機能するようにすることがあげられた。

1年次と同様に外部専門家を招き、ケース研究を中心に進める。その中で課題となったことについて検討しつつ、本研究の中心課題である指導力の向上に関する効果について考察する。年度末に研究成果を公表する。

平成21年度「PT、OT、ST等の外部専門家を活用した指導方法等の改善に関する  
実践研究事業」の研究概要

都道府県	福井県
------	-----

1. 指定地域・指定校

	指定校名	障害種別	児童生徒数（訪問教育含む）				計
			幼稚部	小学部	中等部	高等部	
指 定 校	1) ろう学校	聴覚障害	6	13	9	6	34
	2) 福井養護学校	肢体不自由	0	41	15	18	74
	3) 福井東養護学校	病弱・肢体不自由	0	22	12	45	85
	4) 嶺北養護学校	知的障害	0	63	56	92	211
	5) 福井南養護学校	知的障害	0	29	34	63	126
	6) 清水養護学校	知的障害	0	9	2	0	11
	7) 南越養護学校	知的障害	0	9	5	28	42
		重複障害	0	18	6	7	31
		肢体不自由	0	1	0	1	2
		病弱・身体虚弱	0	0	0	8	8
	8) 嶺南東養護学校	知的障害	1	10	5	24	40
		重複障害	0	35	12	10	57
肢体不自由・病弱		0	2	0	1	3	

2. 研究概要

○研究テーマ

「外部専門家の活用による指導過程の改善に視点をおいた指導の取り組み」

平成21年度は、実態把握と指導計画作成の段階から外部専門家に積極的に参加していただき、実態把握の方法や指導計画作成時の協力体制について、障害種別に有効な外部専門家の活用方法について検討する。また、今年度十分ではなかった、学校間で共有する課題や共通の障害種に関する課題について全県的な視点から検討することとする。

○研究の概要

- 1 外部専門家と連携しながら、児童・生徒の状態の把握から指導計画の作成、実際の指導、指導に対する評価とさらなる指導計画の改善という一連の指導過程を重視した、年間を通じた継続的な指導を行う。
- 2 継続的な指導と平行して、ケース検討会や校内研修を実施することで、教員の資質向上を同時に図る。
- 3 県の推進会議を通して、県下全域で共通する課題について、外部専門家、学校の両者の立場から報告書としてまとめる。

平成21年度「PT、OT、ST等の外部専門家を活用した指導方法等の改善に関する実践研究事業」の研究概要

1. 指定地域・指定校

(平成20年5月1日現在)

地域名	学校名	障害種	幼児児童生徒数					計
			幼稚部	小学部	中学部	高等部	選考科	
長野県	松本養護学校	知的障害		79	68	94		241
	安曇養護学校	知的障害		54	46	67		167

2. 研究概要

<p><b>○研究テーマ</b> 「PT、OT、ST等の外部専門家と連携した自立活動等の学習支援の改善」</p> <p><b>○研究の概要</b> 長野県では、特別支援学校において、これまで培われてきた障害種別の教育水準や教員の専門性が向上維持できるよう、教員の確保、自立活動を中心とした研修、学校間の連携、外部の専門家の活用等に取り組んでいる。 自立活動については、自立活動専任教諭の配置を進めているが、20年度は担任の専門性向上、技能の向上を目指し、情報交換会や研修会を県下18校の特別支援学校に呼びかけ開催した。また、昨年度の研究から、外部専門家の参画による指導計画の作成・検討や外部専門家を活用した校内研修の開催による専門知識・技術の修得が図られてきているところである。今年度は、昨年度までの研究の上に立ち、より具体的な事例検討を通じ、自立活動学習支援連携計画評価表1～3の修正・検討（「個別の指導計画」との関連、学習計画案への位置づけ、支援への活用）、外部専門家との連携システム作り、スーパーヴァイザーによる実践校巡回指導による支援の向上を目指したい。</p> <p>＜研究内容＞</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>実践校をモデルとした自立活動の学習支援改善についての調査研究 <ul style="list-style-type: none"> <li>20年度に作成した自立活動学習支援連携計画（仮称）評価表を、事例検討会を通じて検討し、修正を行い、広く活用できるツールにしていく。</li> <li>公開授業研究会において、連携ツールによって得られた支援情報が、具体的に「個別の指導計画」や1時間の授業の中でどのように活用されているかを明確にする。</li> </ul> </li> <li>自立活動指導研究を核とした特別支援学校自立活動担当者間の連携システム構築 <ul style="list-style-type: none"> <li>自立活動担当者会の開催</li> </ul> </li> <li>専門性向上のための教員研修</li> </ol> <p>＜研究計画＞</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>推進会議（長野県自立活動学習支援連携協議会）の運営 <ul style="list-style-type: none"> <li>医師、大学教授、障害者総合支援センター療育コーディネーター、PT、ST、OT等外部専門家を含む支援のための連携協議会を継続して設置し、研究を推進する。</li> <li>(1) 連携システム構築にあたっての課題を明確にする。</li> <li>(2) 公開研究会の企画立案・推進と開催。研究成果を県内外問わず広く普及する。</li> </ul> </li> <li>教員と外部専門家の連携・協力による指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 20年度に作成した自立活動学習支援連携計画の評価表の修正・検討 <ul style="list-style-type: none"> <li>事例検討会による指導内容と評価方法の校内検討会</li> <li>公開授業研究会の開催</li> <li>スーパーヴァイザー（大学教授）による実践校巡回指導と検討。</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>校内研修等による専門性の向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 自立活動校内研修会の開催</li> <li>(2) 連携シートを活用しながら、医療機関訓練参観等の研修を実施</li> <li>(3) 事例研究を中心とした自立活動専任教諭（担当者）会の開催</li> </ul> </li> </ol>
---

平成21年度PT、OT、ST等の外部専門家を活用した指導方法等の改善に関する実践研究事業」の研究概要

都道府県	鳥取県
------	-----

1. 指定地域・指定校

	学校名	障害種	幼児児童生徒数					計
			幼稚部	小学部	中学部	高等部	専攻科	
指定校	県立鳥取盲学校	視覚障害		3	4	8	6	21
	県立鳥取聾学校 〃 ひまわり分校	聴覚障害	11	15	1	13		40
	県立鳥取養護学校	病弱 肢体不自由		20	11	32		63
	県立白兎養護学校	知的障害		34	57	87		178
	県立倉吉養護学校	知的障害 肢体不自由		40	36	65		141
	県立皆生養護学校	肢体不自由	3	29	14	22		68
	県立米子養護学校	知的障害		45	59	99		203

2. 研究概要

<p>○研究のテーマ PT、OT、ST等の外部専門家を学校と教員の専門性向上に生かすために</p> <p>○研究の概要 (研究内容) 各県立特別支援学校において、在籍する幼児児童生徒の実態に応じた指導の充実を図るために、PT、OT、ST、臨床心理士等の外部専門家の有する専門的知見を活用し、的確な実態把握、効果的な指導法の提言と教材・教具等の工夫、指導の評価等を行い授業改善と教員の専門的な指導力の向上、総合的な支援体制の整備に関する実践研究を行う。</p> <p>(研究計画) 今年度は第二年次となる。昨年度に引き続き、全県を地域指定し、全県立特別支援学校で実践研究を行う。</p> <p>〈指定地域全体〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「特別支援学校実践研究推進会議」の開催（年2回）</li> <li>○各学校の実践研究の推進</li> <li>○事業報告書の作成・提出</li> </ul> <p>〈実践研究校〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習指導の改善（授業づくり）</li> <li>○総合的な支援体制の整備</li> <li>○教員の専門性の向上</li> </ul>
---

平成21年度「PT、OT、ST等の外部専門家を活用した指導方法等の改善に関する実践研究事業」の研究概要

都道府県 島根県

1. 指定地域・指定校

	指定校名	障害種別	幼児児童生徒数					計
			幼稚部	小学部	中学部	高等部	専攻科	
指	盲学校	視覚障害	0	3	5	6	11	25
	松江ろう学校	聴覚障害	6	4	10	15	0	35
定	松江養護学校	知的障害		41	34	143		218
	出雲養護学校	知的障害		44	49	131		224
	石見養護学校	知的障害		3	9	30		42
	浜田養護学校	知的障害		9	12	49		70
	益田養護学校	知的障害		13	16	50		79
校	隠岐養護学校	知的障害		0	4	12		16
	松江清心養護学校	肢体不自由		31	23	20		74
	江津清和養護学校	肢体不自由		8	2	7		17

2. 研究概要

○研究テーマ

児童生徒の障害の重複化や多様化に対応し、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導を充実させるため、外部専門家を招聘することにより、各分野の知見を学校教育に取り込み、指導方法や指導体制等の吟味と改善を図る。

○研究の概要

(1) 外部専門家を活用した指導内容と指導方法の改善・充実に関する研究（指定校）

- ・継続的に専門家と協力した事例研究、授業作り
- ・定期的に専門家を招聘した校内研修会の取組

昨年度の実践研究を踏まえ、各校の年間を通した実践計画の実施と具体的な課題の設定と課題解決に向けた取組

(2) 連絡会議、巡回訪問（県教委）

- ・指定校での取組状況の確認や実践研究についての指導助言や県内連携機関等との調整、学校間の情報の共有化を図り円滑な実践研究の取組を図る。
- ・今後の外部専門家の活用の在り方についての検討。

平成21年度「PT、OT、ST等の外部専門家を活用した指導方法等の改善に関する  
実践研究事業」の研究概要

都道府県	山口県
------	-----

1. 指定地域・指定校

地域名	学校名	障害種	幼児児童生徒数					
			幼稚部	小学部	中学部	高等部	専攻科	計
萩地区	山口県立萩総合支援学校	知的障害を 主とする	/	20	21	40	/	81
宇部地区	山口県立宇部総合支援学校	知的障害を 主とする	/	56	40	131	/	227

2. 研究概要

○ 研究テーマ

<萩地域>

- ・ 教員とPT等との連携による指導計画の作成、教材・教具の開発等を通して、指導内容や指導方法の改善を図るとともに、教員の専門性の向上を目指す。
- ・ PT等の教育相談活動への参画により、一人一人の児童生徒の教育的ニーズに応じた適切な指導及び必要な支援の在り方について、実践研究を行う。
- ・ PT等の参画を得た事例検討会や地域研修会等の開催など、センター的機能におけるPT等の効果的な活用について実践研究を行う。

<宇部地域>

- ・ PT等の参画を得て、自立活動における授業改善を図るなど、一人一人の児童生徒の教育的ニーズに応じた適切な指導及び必要な支援の在り方について、実践的な研究を行う。
- ・ PT等の参画を得て、児童生徒の実態把握から指導計画の作成、教材・教具の工夫など、授業改善を図るとともに、教員の専門性の向上を目指す。
- ・ PT等の参画を得た事例検討会や地域研修会等の開催など、センター的機能におけるPT等の効果的な活用について実践研究を行う。

○ 研究の概要

県内の各特別支援学校でのPT等を活用した授業実践について情報交換を行うなど、連携を図りながら全県的な取組を進め、実践的な研究の充実を図る。

<萩地域>

- ア 研究運営協議会の開催
- イ 外部専門家が教員と連携して定期的に指導等を行うなど、初年度の実践に工夫・改善を加え、適切な指導方法や必要な支援の在り方についての研究を行う。
- ウ センター的機能における外部専門家の有効的な活用についての実践研究を行う。

<宇部地域>

- ア 研究運営協議会の開催
- イ センター的機能における外部専門家の有効的な活用についての実践研究を行う。

平成21年度「PT、OT、ST等の外部専門家を活用した指導方法等の改善に関する実践研究事業」の研究概要

都道府県	長崎県
------	-----

1. 指定地域・指定校

地域名	学校名	障害種	幼児児童生徒数					計
			幼稚部	小学部	中学部	高等部	専攻科	
県南地区	諫早養護学校	肢体不自由	—	35	27	61	—	123
	長崎養護学校	肢体不自由	—	16	7	—	—	23

2. 研究概要

○研究テーマ

「PT、OT、ST等の外部専門家を活用した指導方法等の改善に関する実践研究」

障害が重度・重複化、多様化している児童生徒を指導する教員が、さらに厚みのある専門性を身につけることができるように、自立活動の専門性評価シート（仮称）やパワーアップシート等を活用し、児童生徒の自立と社会参加に向けた指導方法等の改善について実践研究を行う。

○研究の概要

- ・肢体不自由児を教育する特別支援学校において、自立活動に必要な自己の専門性を客観的に評価することのできるシートについて研究する。
- ・児童生徒の指導課題等について、外部専門家を活用する前の自分の見立てと、活用後の発見等を比較しながら「自己の専門性の変化」を分析的に理解できるようなパワーアップシート等を更に工夫し、活用する。
- ・各種シートと個別の教育支援計画等との関連について検討する。
- ・外部専門家同士が連携しあったり、保護者が連携に加わったりなど、多面的な連携の在り方について工夫する。
- ・本事業導入時と2年次終了時に実施した教員のニーズ調査、各種シートの比較分析をとおして、教師の専門性や本事業の成果についてまとめる。

平成21年度「PT、OT、ST等の外部専門家を活用した指導方法等の改善に関する  
実践研究事業」の研究概要

都道府県 宮崎県

1. 指定地域・指定校

地域名	学校名	障害種	幼児児童生徒数					
			幼稚部	小学部	中学部	高等部	専攻科	計
延岡市	延岡わかあゆ支援学校	知的障害 肢体不自由		23	18	28		69
	延岡たいよう支援学校	知的障害		20	19	74		113
	延岡ととろ聴覚支援学校	聴覚障害	5	7	3			15

2. 研究概要

○研究テーマ

特別支援学校において、PT、OT、ST等の外部専門家を活用し、医学、心理学などの専門的な視点から、一人一人の障がいの状態や特性に応じた専門性の高い指導方法等についての実践研究を行う。

○研究の概要

(1) 研究内容

ア 教員と協力した指導

- 外部専門家の指導・助言により、幼児児童生徒の実態把握、指導計画作成、指導内容や方法、教材教具の工夫、評価等の改善を図る。
- 外部専門家と協力して幼児児童生徒の指導を行うことにより、専門的な視点からの指導力の向上を図る。

イ 校内研修による専門性の向上

- 外部専門家を活用した研修を行うことにより、教員の専門性の向上を図る。

ウ 大学及び地域医療機関との連携の在り方

- 外部専門家を有効に活用するために、地域の大学及び医療機関等との連携の在り方を確立する。

(2) 研究計画

ア 推進会議の設置及び開催

- 各学校の計画、取組等についての検証
- 事業後の外部専門家との連携の在り方についての検討

イ 平成21年度の内容

- 外部専門家の巡回による指導・助言
- 学校の担当者と外部専門家によるケース会議の実施
- 外部専門家による研修会・講演会等の実施

(3) 研究成果の報告

ア 研究報告書の作成

- 研究指定終了に伴い、2年間の研究内容をまとめた研究報告書を作成する。

イ 研究報告会の開催

- 2年間で取り組んだ研究内容を県内の各特別支援学校及び地域医療・福祉等の関係機関に対して研究報告会を開催して発表する。

平成21年度「PT、OT、ST等の外部専門家を活用した指導方法等の改善に関する  
実践研究事業」の研究概要

指定都市	京都市
------	-----

1. 指定地域・指定校

地域名	学校名	障害種	幼児児童生徒数					計
			幼稚部	小学部	中学部	高等部	専攻科	
京都市	北総合支援学校	総合制		71	43	113		227
	東総合支援学校	総合制		45	42	67		154
	西総合支援学校	総合制		68	46	66		180
	呉竹総合支援学校	総合制		48	30	81		159

2. 研究概要

○研究テーマ

PT、OT、ST等の外部専門家を活用することにより、教員への専門的な視点からの指導助言や児童生徒への直接的な指導を通して、指導方法の改善・充実を図るとともに、教員の専門性の向上を図る。

○研究の概要

京都市の地域制の総合支援学校4校で実施する。4校共通のテーマで研究を進め、推進会議で情報共有し、検証を行う。

1年目の成果をもとに、指導方法の改善・充実を図り、個別の包括支援プランに成果を反映させ、検証する。

- ・実態把握の方法（検査法を含めて）、指導計画作成のあり方、教材・教具の工夫、評価のあり方等を見直し、更に指導方法の充実を図る。
- ・外部専門家による研修会を実施するとともに、外部専門家の参加するケース会議を設定することで、学校全体の専門性の向上を図る。
- ・ケース会議に外部専門家が参加することで、成果・課題を、個別の包括支援プラン、個別の移行支援計画にどのように活かせるかを検証する。
- ・授業改善のチェックシートを作成し、授業改善を行い、個別の包括支援プランの目標設定や指導場面に反映させ、指導内容の充実を図る。
- ・外部専門家の指導助言を有効に活かせる校内システム（どれだけ活用するか、どのように活用するか）の仮説を立て、検証する。

大学の研究者等と連携して、PT、OT、ST等の外部専門家のより有効な活用のあり方について研究する。

平成21年度「PT、OT、ST等の外部専門家を活用した指導方法等の改善に関する実践研究事業」の研究概要

都道府県	北九州市
------	------

1. 指定地域・指定校

地域名	学校名	障害種	幼児児童生徒数					計
			幼稚部	小学部	中学部	高等部	専攻科	
北九州地区	企救特別支援学校	病弱		18	26	26		70
	北九州特別支援学校	肢体不自由		41	38	31		110
	小倉南特別支援学校	知的障害		90	63	76		229

2. 研究概要

○研究テーマ

特別支援学校に、PT(理学療法士)、OT(作業療法士)、ST(言語聴覚士)、臨床心理士を配置し、教員と協力した指導を行うことにより、指導方法等の改善及び教員の専門性の向上を図る。

- ・ 障害種別の各校において、教員の専門性の向上を図る上で専門家の有効な活用方法を明らかにする。

○研究の概要

【企救特別支援学校】

- 臨床心理士やPTの指導・助言を受け、教師と専門家の協議を通して専門性を高める。
  - ・ 対象児童生徒の実態把握の方法、実態整理の方法について
  - ・ 個別の教育支援計画における目標の設定及び指導内容の設定について
  - ・ 授業場面での教師のかかわり方など具体的な支援について

【小倉南特別支援学校】

- OTと教員が協力した指導により指導方法等の改善を図る。
  - ・ 授業への参加及び協力・連携した指導
  - ・ 指導目標・内容及び方法等について協議し、共通理解を図るケース検討会の実施
- 教員の専門性の向上を図る。
  - ・ 全教職員の専門性の向上を計画的に図るための校内研修の実施

【北九州特別支援学校】

- 教員の専門性の向上及び児童生徒の指導の充実を図る上で、外部専門家の有効な活用方法を探る。
  - ・ 外部専門家と教員が協力した指導の実施（継続的な指導）
  - ・ 自立活動の時間の指導へ参加しての指導・助言
  - ・ 相談事項等のある事例に対する指導・助言（単発的な指導）
- 特別支援学校において専門家と協力した指導が有効であることを明らかにする。

【3校共通】

- 外部専門家活用推進会議を開催し、専門家活用の有効な活用方法や教員の専門性の向上等について協議し評価する。